

プラ依存社会転換を

海ごみフォーラム 影響や削減法説明

国内外で深刻化する政策に詳しい大阪商業海ごみをテーマにした大の原田禎夫准教授「瀬戸内海 海ごみフが、MPによる海洋汚染を念頭にカキやハマオーラムinおかや染を念頭にカキやハマま」（県主催）が8日、岡山市内で開かれた。からプラスチックが検出されている事例を説明。その上で「プラスチックごみが紫外線や波みに含まれる有害物質で碎かれ微細化した劣化によって漏れ出が劣化によって漏れ出「マイクロプラスチック」が生物に健康被害につながる「MP）が生物にるリスクがある」と警告した。

国内のプラごみ発生源について、内陸部から河川を通じて海に流



海ごみを与える影響や削減方法をテーマに開かれたフォーラム

り方を変えなければならぬ」と訴えた。事例発表では、NP（高松市）が、ペットボトル削減に向けたマイボトルの利用促進を紹介。うどん店や公共施設に呼び掛け、無料で飲料水を提供してもらえよう工夫している点などを話した。

フォーラムは海ごみの発生抑制や回収処理を広げるため2018年に始まり、3回目。（洞井宏太）

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。